

事業改善会議用シート

| 対象事業 | ふれあい入浴券交付事業 | 委員 | |
|----------------|---|--|--|
| 事業が抱えている課題 | <p>①配布方法の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な理由など個々の状況によって入浴券を使えない方へも入浴券を配布していること。 <p>②受益面での課題(利用可能回数など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の利用単価(点数)が異なっているため利用可能回数が不均一なこと。 (利用合計点数は60点) ・1人あたりの交付点数の妥当性はどうか。 <p>③その他の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一律のサービス提供方式がよいのか。 ・利用実績は施設によって相当の違いがあること。 | | |
| 仕分け区分(方向性を○囲み) | 委員の具体的なご意見等 | | |
| ① 廃止 | 1人 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初の事業の目的に従っているとは思えない。 ・問題や誤解を招くような事業は不必要。 ・高齢化が進む中で若い人達が支えきれない。 | |
| ② 現行維持 | 0人 | | |
| ③ 制度の抜本的な見直し | 2人 | <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者と地域住民とのふれあいの機会の促進」という目的に合致しているだろうか。 ・対象者の年齢を75歳以上としたらどうか。 ・点数について検討を進め、財政負担の軽減を図ったらどうか。 ・利用できない人をどうしたらいいか、検討したらどうか。 ・実施方法を別途考える。 ・アンケートをとり、広く意見を収集する。 ・多数派の意見を知る必要がある。 | |
| ④ 改善 | 5人 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用年齢の引き上げ ・支出金の固定化 ・利用目的の変更(見直し) ・利用者の声を聞き、今後の方向性へ ・利用点数配分の見直し(施設別に) ・75歳以上にしては。 ・原資を固定し、点数を減少させることで、高齢人口増に対応し、現行制度を維持する。 ・大浴場の割当点数を増やし、銭湯の点数を小さくする。 ・対象年齢は70歳でいいと思料する。 | |

事業改善会議用シート

| 対象事業 | 除雪サービス事業 | 委員 | |
|----------------|---|----|--|
| 事業が抱えている課題 | <ul style="list-style-type: none"> ①対象世帯の判定方法の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・判定は地域の町内会長と民生委員に依存しており地域格差が生じることもあること。 ②「自助」の観点からの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・近くに居住する親族等の支援について厳格な基準設定も必要であること。 ③「共助」の観点からの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな手法による地域支援体制の検討も必要であること。 ④民間事業者等の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者、NPO法人等を含めたボランティア団体による事業展開の検討も必要であること。 | | |
| 仕分け区分（方向性を○囲み） | 委員の具体的なご意見等 | | |
| ① 廃止 | 0人 | | |
| ② 現行維持 | 1人 <ul style="list-style-type: none"> ・当面は（中期的）には現行どおり。 | | |
| ③ 制度の抜本的な見直し | 2人 <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりということを考えてボランティアにて行う。 ・金額を見直し。 ・除雪サービスとするなら不十分。 | | |
| ④ 改善 | 5人 <ul style="list-style-type: none"> ・民間業者の活用、NPO法人等も検討 ・除雪機のリース等の補助 ・交付金の金額は、対象者の増加によって下げる ・町内会の関係も必要。応援をしてもらうシステムを作る必要。 ・対象世帯の決定方法の見直し。 ・地域における支援体制を検討する。 ・ボランティアの意識を高めていくようにあらゆる機会、場をとらえていく。 ・減額をして様子を見る。 ・有償ボランティアを募る。 ・原資固定で配分方法を変える。 ・ボランティア精神の植え付けを図る。 | | |